

科目名 社会科・地理歴史科教育法I
Title Teaching Methods in Social and Geographic-Historical Studies I
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 清水 照久 (シミズ テルヒサ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として必要とされる資質・能力を具体的に小中高校の授業DVDを見てグループや全体で考察することで見だし深めていく。また、学習指導要領の読解を通して、それぞれの教科・科目の指導目標及び指導内容を理解する。主題学習や課題解決型学習、協働的な学びなどの多様な学習形態・指導方法についての理解を深める。

達成目標

小中高校の授業DVDを見てグループや全体で考察することで、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として必要となる資質・能力が高まる。社会科・地理歴史科教員として必要となる能力が備わる。それぞれの教科・科目の学習指導要領が定める指導目標及び指導内容を理解する。主題学習や課題解決型学習、協働的な学びなどの多様な学習形態について理解し、任意の学習単位の中でそうした学習形態を使った授業をプランニングすること

スケジュール

- 第1回 社会科教育とは
- 第2回 社会科教育の経緯と日本の教育課題
- 第3回 小学校における社会科 小学校社会科の授業をデザインする
- 第4回 中学校における社会科1 中学校地理的分野の授業をデザインする
- 第5回 中学校における社会科2 中学校歴史的分野の授業をデザインする
- 第6回 高等学校における地理歴史科1 歴史総合の授業をデザインする
- 第7回 高等学校における地理歴史科2 地理総合の授業をデザインする
- 第8回 ジグソー学習の授業を観る
- 第9回 ジグソー学習を体験する / 主体的・対話的で深い学び (協働学習) について
- 第10回 主題学習を観る
- 第11回 学習評価について 小学校の授業実践から
- 第12回 特別な支援が必要な生徒への対応について
- 第13回 通常学級に在籍する特別な支援が必要な生徒への対応 / 学校運営の視点
- 第14回 指導案の作成1
- 第15回 指導案の作成2

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配付します。

参考書 受講者の状況を踏まえて適宜紹介します。

授業外での学習

事前・事後に適宜授業内容について確認をしてください。

評価方法

小中高校の授業DVD等を見てグループや全体で考察し作成・提出する小レポートの内容やグループ協議への参加状況を50%、試験(レポート)50%で評価します。試験(レポート)は学習指導案を具体的に作成する。単元構成や(仮想)生徒の実態に合わせ、指導上の工夫や評価の観点の踏まえた指導プランが作成できるかを評価

履修上の注意

全授業の半分以上出席しないと履修条件を満たさないものとします。無断で欠席しないようにしてください。二年生以上での受講をすすめます。IIと合わせて履修することが望ましいです。

科目名 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
Title Teaching Methods in Social and Geographic-Historical Studies II
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 清水 照久（シミズ テルヒサ）

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

中学校や高等学校において、授業を行う際に必要となる基本理念を学び、様々なケースに応じて授業時に配慮すべき事項等を考える姿勢や方策を学ぶ。中学校社会科・高等学校地理歴史科の学習指導要領で示される目標や内容を踏まえて、具体的に各自が希望する科目で模擬授業を実施することで、それぞれの教科・科目の授業に必要なスキルを理解するとともに、授業に必要な教材を準備し、より良い授業を行う方法を学ぶ。

達成目標

中学校や高等学校において、授業を行う際に必要となる基本理念を理解し、様々なケースに応じて授業時に配慮すべき事項等を主体的に考えることができる。中学校社会科・高等学校地理歴史科の学習指導要領で示される目標や内容を踏まえて、各自が希望する科目で模擬授業を実施することで、それぞれの教科・科目の授業に必要なスキルを理解し、必要な教材を準備するとともに、よりよい模擬授業を行うことができる。

スケジュール

- 第1回 学校教育における授業の位置づけ
- 第2回 授業中の生徒指導とは / 個別最適な学びとは
- 第3回 模擬授業Ⅰ
- 第4回 模擬授業Ⅰ
- 第5回 模擬授業Ⅰ
- 第6回 模擬授業Ⅰ
- 第7回 模擬授業Ⅰ
- 第8回 模擬授業Ⅰ
- 第9回 社会科・地歴科の授業に必要な活動とは？
- 第10回 模擬授業Ⅱ
- 第11回 模擬授業Ⅱ
- 第12回 模擬授業Ⅱ
- 第13回 模擬授業Ⅱ
- 第14回 模擬授業Ⅱ
- 第15回 模擬授業Ⅱ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配付します。

参考書 受講者の状況を踏まえて適宜紹介します。

授業外での学習

事前・事後に適宜授業内容について確認をしてください。

評価方法

課題提出状況、模擬授業の状況、他の生徒の模擬授業評価状況を60%、試験（レポート）40%
模擬授業評価状況は、場面を変えた模擬授業を各自2回実施するとともに、仲間の模擬授業を評価しコメントを作成する活動をトータルで評価することとなる。

履修上の注意

全授業の半分以上出席しないと履修条件を満たさないものとします。無断で欠席しないようにしてください。二年生以上での受講をすすめます。Iと合わせて履修することが望ましいです。

科目名 社会科・公民科教育法I
Title Teaching Methods in Social Studies and Civics I
科目区分 教職関連科目

准教授 内山 知一 (ウチャマ トモカズ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

中学校社会科・高校公民科の特徴、変遷、授業などを、さまざまな観点で見ることで、その概観を把握し、学校での経験を元に得た学びなども踏まえて、授業作りで不可欠なスキルを養う。

達成目標

- ・教科の特徴や変遷などを把握できている。
- ・模擬授業や優れた授業の特徴を検討し、その長所・短所をさまざまな観点でとらえ、自らの指導法を省みることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教科の特徴と概観（方法・ねらい・扱う領域など）
- 第3回 教科の歴史上の変遷・現状
- 第4回 授業事例の紹介・検討：授業の組み立て
- 第5回 授業事例の紹介・検討：発問
- 第6回 授業事例の紹介・検討：その他
- 第7回 指導案立案の手順・形式（例）
- 第8回 模擬授業①
- 第9回 模擬授業②
- 第10回 模擬授業③
- 第11回 模擬授業④
- 第12回 模擬授業⑤
- 第13回 振り返り（技術面・指導案も含む）・修正事項などの確認
- 第14回 よりよい授業の条件
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布します。

参考書 受講者の状況も踏まえて適宜示します。

授業外での学習

事前・事後に振り返り・まとめ・次週の確認などをすすんでやること。

評価方法

参加度（模擬授業や提出物など：50％）、試験（50％）
各目標に照らし、講義で身につけたことを踏まえて有効な取り組みができたかで評価します。

履修上の注意

無断での遅刻・欠席をしないこと。受講者数・状況に応じ、順番などが入れ替わることがあります。原則、二年生以上での受講を求めます。

科目名 社会科・公民科教育法II
Title Teaching Methods in Social Studies and Civics II
科目区分 教職関連科目

准教授 内山 知一 (ウチャマ トモカズ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

中学校社会科・高校公民科の特徴、変遷、授業などを相互に結びつけてとらえることで、当該領域を深く把握し、学校での経験を元に得た学びなども踏まえて、有効な授業作りで不可欠なスキルを養う。

達成目標

- ・教科の特徴や変遷などを、相互のかかわりも含めて把握できる。
- ・模擬授業や優れた授業の特徴を検討し、その長所・短所をさまざまな観点でとらえ、有効な授業作りができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 現カリキュラムの特徴・概観
- 第3回 現在までのカリキュラムの変遷・背景
- 第4回 授業事例の紹介・検討：授業の組み立て
- 第5回 授業事例の紹介・検討：発問
- 第6回 授業事例の紹介・検討：その他
- 第7回 模擬授業①
- 第8回 模擬授業②
- 第9回 模擬授業③
- 第10回 模擬授業④
- 第11回 模擬授業⑤
- 第12回 振り返り（技術面・指導案も含む）・修正事項などの確認
- 第13回 反省も踏まえた単元の再検討と課題の把握
- 第14回 よりよい授業の条件
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布します。

参考書 受講者の状況も踏まえて適宜示します。

授業外での学習

事前・事後に振り返り・まとめ・次週の確認などをすすんでやること。

評価方法

参加度（模擬授業や提出物など：50％）、試験（50％）
各目標に照らし、講義で身につけたことを踏まえて有効な取り組みができたかで評価します。

履修上の注意

無断での遅刻・欠席をしないこと。受講者数・状況に応じ、順番などが入れ替わることがあります。前期をすでに取っていることが前提となります。原則、二年生以上での受講を求めます。

科目名 商業科教育法I
Title Teaching Methods of Business I
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 大嶋 伊佐雄 (オオシマ イサオ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義では、商業教育の意義やわが国の商業教育の歩みについて考察し、その後、高等学校学習指導要領(商業)の変遷及び学習指導要領(教科「商業」)の目標・構造・各科目の目標・内容・内容の取扱い)に関する目標及び内容などについて解説します。高等学校学習指導要領が求めている資質・能力について考察・探究を行います。また、学校現場および教育指導行政における教育経験を活かし、商業教育における具体的な課題や対応方法について講義を行います。

達成目標

1. 商業高校における商業教育の意義や役割について理解するとともに、その説明ができる。
2. 学習指導要領(教科「商業」)の目標・構造・各科目の目標・内容・内容の取扱い)について理解するとともに、その説明ができる。
3. 学問領域を踏まえた教材研究、指導と評価の一体化、情報機器の活用等を取り入れた学習指導案が作成できる

スケジュール

- 第1回 授業の概要、目的、到達目標及び授業方法
高等学校における商業教育の必要性
- 第2回 商業教育の意義
- 第3回 わが国の商業教育の歩み(1)(太平洋戦争以前)
- 第4回 わが国の商業教育の歩み(2)(太平洋戦争以降)
- 第5回 学習指導要領の意義
- 第6回 高等学校学習指導要領(商業)の変遷(1)(昭和53年改訂以前)
- 第7回 高等学校学習指導要領(商業)の変遷(2)(平成11年改訂まで)
- 第8回 高等学校学習指導要領(商業)の変遷(3)(平成21年改訂)
- 第9回 平成30年告示高等学校学習指導要領(商業)の目標・分野(1)(商業科改訂の趣旨及び要点・分野共通科目)
- 第10回 平成30年告示高等学校学習指導要領(商業)の目標・分野(2)(マーケティング分野)
- 第11回 平成30年告示高等学校学習指導要領(商業)の目標・分野(3)(マネジメント分野)
- 第12回 平成30年告示高等学校学習指導要領(商業)の目標・分野(4)(会計分野・ビジネス情報分野)
- 第13回 平成30年告示高等学校学習指導要領(総則)の解説(1)(総則の要点)
- 第14回 平成30年告示高等学校学習指導要領(総則)の解説(2)(指導計画の作成と内容の取扱い)
重要答申
- 第15回 学習評価及び授業の振り返り

教科書・参考文献

- 教科書 「21世紀の商業教育を創造する 商業科教育論」(日本商業教育学会、実教出版)
「高等学校学習指導要領」(平成30年告示 文部科学省、東山書房)
- 参考書 「高等学校学習指導要領解説総則編」(平成30年告示 文部科学省、東洋館出版社)
その他の参考文献、統計資料及び関連ウェブサイトは、授業のなかで適宜紹介します。

授業外での学習

新聞等を通じてビジネス教育への関心を持って取り組むこと。
学習指導案の作成や必要に応じて各種の発表などを行い、教師としての資質と能力を養っていきます。
授業計画表に記載されている項目について、テキストを利用して予習や復習するなど、積極的・主体的な学習態

評価方法

定期試験(60%)、レポート課題とその発表(30%)、授業への参加度(態度・意欲など10%)
評価基準は、達成目標に挙げた項目と照らし合わせ、授業内での質問や意見の内容、定期試験やレポート課題で具体例を挙げた論術ができるかを評価基準とする。

履修上の注意

「商業科教育法I」の履修後「商業科教育法II」の履修が望ましいです。

科目名 商業科教育法II
Title Teaching Methods of Business II
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 大嶋 伊佐雄 (オオシマ イサオ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義では、学習指導案をもとにした模擬授業の実施及びこれを踏まえた授業改善の他、教育課程の編成上必要となる知識などを身につけ、実際に商業科の教育課程を編成します。その後、学習指導以外の各種指導(特別活動、生徒指導・進路指導)などに関する内容について、商業教育との関連から考察し、授業改善などに活かしていく手法を学びます。
また、学校現場および教育指導行政における教育経験を活かし、商業教育における具体的な課題や対応方法について講義を行います。

達成目標

1. 学習指導案をもとに模擬授業ができ、これを踏まえた授業改善ができる。
2. 他者の模擬授業を観察して、教科の学習評価を踏まえた授業評価ができる。
3. 学習指導要領(教科「商業」の目標・構造・各科目の目標・内容・内容の取扱い)について、理解するとともにその説明ができる。

スケジュール

- 第1回 授業の概要、目的、到達目標及び授業方法
高等学校学習指導要領について
- 第2回 教育課程と指導計画(生徒・学校・地域の実態を踏まえて)
- 第3回 教育課程(商業の各科目)の編成にあたって
- 第4回 教育課程(商業の各科目)編成の実際
- 第5回 教育課程(商業の各科目)の編成と発表
- 第6回 指導計画と授業展開(学習指導案の構成)
- 第7回 指導計画の実施・評価・改善(教材研究と情報機器の活用)
教材研究と授業の組み立て
- 第8回 学習指導案の作成(学習内容と指導上の留意点、評価)
- 第9回 学習評価について
- 第10回 授業展開の実際(1) (模擬授業に向けて・模擬授業)
- 第11回 授業展開の実際(2) (模擬授業・授業分析)
- 第12回 授業展開の実際(3) (模擬授業・授業評価)
- 第13回 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(情報機器を活用した講義の展開)
商業教育の課題
- 第14回 商業教育の展望
- 第15回 教科「商業」の各種実践研究の動向と授業改善及び授業の振り返り

教科書・参考文献

- 教科書 「21世紀の商業教育を創造する 商業科教育論」(日本商業教育学会、実教出版)
「高等学校学習指導要領」(平成30年告示 文部科学省、東山書房)
- 参考書 「高等学校学習指導要領解説総則編」(平成30年告示 文部科学省、東洋館出版社)
その他の参考文献、統計資料及び関連ウェブサイトは、授業のなかで適宜紹介します。

授業外での学習

新聞等を通じてビジネス教育への関心を持って取り組むこと。
学習指導案の作成や必要に応じて各種の発表などを行い、教師としての資質と能力を養っていきます。
授業計画表に記載されている項目について、テキストを利用して予習や復習するなど、積極的・主体的な学習態

評価方法

定期試験(60%)、レポート課題とその発表(30%)、授業への参加度(態度・意欲など10%)
評価基準は、達成目標に挙げた項目と照らし合わせ、授業内での質問や意見の内容、定期試験やレポート課題で具体例を挙げた論術ができるかを評価基準とする。

履修上の注意

「商業科教育法I」を履修後に履修することが望ましいです。

科目名 教育原理
Title Principles of Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 布川 由利 (ヌノカワ ユリ)

E-Mail

配当年次
1

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

この講義では、中学校および高等学校の教員免許状取得にあたり、教育に関する基礎的知識を学ぶ。教育について、国内外における教育の歴史的展開、および代表的な教育思想を学び、教育とは何かを思考する。また、教育諸学の基礎的知識を身につけた上で、学校・家庭・地域・社会に関わる現代の教育に関わる様々な課題について検討する。

達成目標

教育について、国内外の教育の歴史の概要、および教育に関する主要な思想についての知識を得て、説明することができる。教育に関わる今日的な課題について、教育諸学の議論・知識を踏まえて議論し、自らの意見を説明することができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス・教育の課題
- 第2回 教育の歴史① (国外：古代から近代まで)
- 第3回 教育の歴史② (国外：近代から現代まで)
- 第4回 教育の歴史③ (日本の公教育の発展)
- 第5回 教育の思想①
- 第6回 教育の思想②
- 第7回 教育の方法と技術
- 第8回 教育課程
- 第9回 学力問題
- 第10回 教育と階層
- 第11回 家族と子どもの教育
- 第12回 教育と排除・包摂
- 第13回 教育とジェンダー
- 第14回 教師の専門性と労働者としての教師
- 第15回 教育と地域社会

教科書・参考文献

教科書 指定しません (授業で使用する教科書や文献は適宜指示します)

参考書 汐見稔幸・伊東毅・高田文子・東宏行・増田修治編, 2011, 『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房

授業外での学習

授業内で指示された課題文献を授業前までに読んでおくこと。また、授業で扱った内容について必ず復習すること。

評価方法

各授業でのコメントシートの提出 (授業ごとにテーマを提示し、それに基づいてコメントを記述。テーマに沿った内容を十分記述で来ているかを評価する) 50%
期末レポート (文献を読み、要約と批判・考察をまとめる。要約の適切性と批判・考察の妥当性を評価する)

履修上の注意

特になし

科目名 教育学
Title Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義は「教育学」の入門編である。教育の基礎的概念、そして理論・歴史・思想の基本的な知識を学び、「教育とは何か」という問いを多角的かつ客観的に理解することを目的とする。全体は、(1)教育の本質と教育思想、(2)公教育の概念と教育制度、展開、(3)学校教育のあり方と今日的課題、(4)現代社会における教育問題と子ども・若者、の4構成から成り立っている。これらにより、教育という営みについて理解を深め、教育の様々な事象に対し自らの考えをもつ力を培うことを目指す。

達成目標

本授業のテーマは教育の本質を学ぶことである。本授業の達成目標は次の通りである。

1. 教育の思想、歴史的事項、制度を体系的に理解する。
2. 学校の意義について多角的に議論することができる。
3. 社会の変容と子ども・若者との関係を説明することができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション:講義の概要と進め方、評価方法の説明、導入講義
- 第2回 教育の本質① 「教育」の語源、教育の概念
- 第3回 教育の本質② 歴史からみる“子ども”、みんなの子ども時代
- 第4回 「子ども」の誕生と変容① 中世の子ども観
- 第5回 「子ども」の誕生と変容② 教育の思想家から学ぶ教育理論と実践
- 第6回 「子ども」の誕生と変容③ 現代の子ども
- 第7回 公教育の概念と制度① 権利としての教育、義務としての教育、公教育の概念の整理と発展
- 第8回 公教育の概念と制度② 学校の歴史、学校教育制度の発展
- 第9回 現代の学校教育① 学校の知と学校文化、学校の謎を解き明かす
- 第10回 現代の学校教育② 学校の機能と脱学校論
- 第11回 現代の学校教育③ 学校の意義を語る
- 第12回 現代の学校教育④ 日本と諸外国の学校文化を比較する
- 第13回 教育と社会① 社会階層と若者
- 第14回 教育と社会② 現代の教育問題を議論する
- 第15回 総括

教科書・参考文献

教科書 ・ 特に定めない。毎回プリント(ノート用及び資料)を配布する。

参考書 ・ 勝野正章他(2015)『問いからはじめる教育学』有斐閣ストウディア 他

授業外での学習

- ・ 授業後は、記入式ノートを活用して要点をまとめること。また、課題の多くは、各授業の理解度を測るためのものであるため、授業後に必ず取り組むこと。
- ・ 毎回の授業では自らの意見を求めたり、またディスカッション等を行うこともある。なので、専門誌やマスメディア

評価方法

- ・ 評価方法は、単元(テーマ)ごとに出题されている課題が40%、ディスカッションやディベートなどへの参加が10%、期末試験が50%とする。さらに、課題や授業への積極性が優れている者に対し加点をする。
- ・ 期末試験では、達成目標の1～4に関わる重要語句の説明能力で理解度を測り、教育的課題に対して自らの視

履修上の注意

- ・ 授業では、オンラインで意見を提示したり情報収集を頻繁に行うでの情報機器を持参すること。また、日頃から教育に関わる専門誌やマスメディアの情報や書籍に目を通すことを期待する。
- ・ 履修者同士の議論の場を設けるので、その点を考慮した上で履修してほしい。議論が苦手な場合であっても教員が支援するので、気兼ねなく相談してほしい。

科目名 教育と社会
Title Education and Society
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 布川 由利 (ヌノカワ ユリ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

この講義では、中学校および高校の教員免許取得にあたり、学校教員として教育実践に携わる上で必要と考えられる、教育の社会的側面についての知識を得た上で、教育という営みを社会(学)的に捉える技法を学ぶことを目的とする。またそのなかで、受講生自らがこれまでに経験してきた学校教育や家庭教育を反省的に振り返ることで、個人の経験の範囲内で捉えられがちな教育問題について客観的・相対的に捉えられるようになることを目的とする。

達成目標

教育社会学についての基礎的な知識を得る。教育を社会学的に捉えるための調査・分析の手法についての基礎的な知識を得る。教育に関わる様々なトピックについて、授業で学んだ知識や調査・分析手法を手掛かりに、様々な教育問題について考察し説明することができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス・教育を社会学的に捉えるとはどのようなことか
- 第2回 公教育の歴史的展開
- 第3回 教育と社会階層①
- 第4回 教育と社会階層②
- 第5回 家庭と教育
- 第6回 地域・地方と若者
- 第7回 教育から職業への移行
- 第8回 いじめ・不登校
- 第9回 教育とジェンダー
- 第10回 学校のなかの性的マイノリティ
- 第11回 障害児・外国にルーツのある子どもの教育
- 第12回 労働者としての教師
- 第13回 教育の調査・分析手法①
- 第14回 教育の調査・分析手法②
- 第15回 講義のまとめ：教育を社会学的に捉えるために

教科書・参考文献

教科書 指定しません(授業で使用する教科書や文献は適宜指示します)

参考書 中村高康・松岡亮二編, 2021, 『現場で使える教育社会学—教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房, ほか

授業外での学習

授業内で指示された課題文献を授業前までに読んでおくこと。また、授業で扱った内容について必ず復習すること。

評価方法

各授業でのコメントシート提出(50%)、レポート(50%)
コメントシートについては、各授業でテーマを提示するため、そのテーマに従って自身の考えを記述できているかを評価する。またレポートについては課題文献を複数提示し、文献について要約・評価・批判を規定の枚数で

履修上の注意

中学校・高校の教員免許取得を前提としているため、初等教育、就学前教育等については扱わない。

科目名 教職原論
Title Principles of Teaching Profession
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 大佐古 紀雄 (オオサコ ノリオ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

教職は、こどもの育ちに大きく関わり、また日本の未来さえも左右する、社会的な意義が非常に大きい魅力ある職業であると同時に、職責も非常に重い。本講の内容は、①教職の特徴、教師像の歴史、教員の服務・権利・身分保障、研修、チーム学校などに対する理解を深めること、②実際の教師の姿に触れること、③多職種との比較、以上3点で構成される。本講のめざすところは、これらを通じて、教職の魅力の高さと職責の重さを等しく噛み締めていくと同時に、教職への適性をみずから見極めながら教職に向けた意識形成を図っていくことにある。

達成目標

①教職の特徴を理解している。②教師像の歴史を踏まえてあるべき教師像の多様性を理解している。③教員に関する諸制度（服務・権利・身分保障・免許・養成・研修など）を理解している。④現代的な課題である「チーム学校」について理解している。⑤教師の実際の姿や他の職業との比較から、教職の魅力と職責を理解し、教職への意識形成のための機会を十分に得る。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、教職を目指す上での基礎的事項の確認
- 第2回 中等教育の教職の仕事とその魅力
- 第3回 日本の教職の特徴
- 第4回 教師像の歴史
- 第5回 教員の服務
- 第6回 教員の権利と身分保障
- 第7回 教員免許制度と教員養成、そして学び続ける教師～教師になるまでになってから～
- 第8回 チームとしての学校～学校は多様な専門職が集まる場に～
- 第9回 専門家としての教師
- 第10回 教師の実際に学ぶ (1) ～ある中学英語教師から～
- 第11回 教師の実際に学ぶ (2) ～ある小学校教師から～
- 第12回 他の職業と比べる (1) ～研修医との比較～
- 第13回 他の職業と比べる (2) ～法務教官との比較～
- 第14回 教師の実際に学ぶ (3) ～ある小学校校長の実践から～
- 第15回 まとめ「教える」ということの意味を考える

教科書・参考文献

- 教科書 汐見稔幸・奈須正裕監修、佐久間亜紀・佐伯胖編著『現代の教師論』（ミネルヴァ書房：2019年）を使用する。
- 参考書 必要に応じて適宜配布する。

授業外での学習

教職への意識をみずから高めるために、日頃から教員や学校に関する話題に鋭敏なアンテナを立てておいてほしい。

評価方法

評価方法：①定期試験 70% ②毎回の授業の振り返り（リフレクションシート） 30% ③平素の受講状況
評価に反映すべき要素があれば適宜加点・減点する。
評価基準：評価方法①は、主に達成目標①②③④に準拠した評価をするために使う。評価方法②は、主に達成目

履修上の注意

昨今の学校や教員に対する社会のまなざしの厳しさに鑑みて、相応の受講態度で臨むこと。
シラバスの内容や順序は、本講の目的・目標を逸脱しない範囲で変更されることがある。

科目名 教職原論
Title Principles of Teaching Profession
科目区分 教職関連科目

准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

教職は、学校における公教育を通じてこどもたちの育ちに大きく関わる職業であり、かつ社会的意義が非常に大きい職業でもある。教職免許を取得しようとするのであれば、その職責の重さを理念的かつ実践的に理解することが求められる。そこで本講義では、受講者がもつ教職者との関わりの経験を出発点に、教職観の変遷と現行法令や関連の審議会答申などから読み解く教職の意義および教員の役割・資質能力について講ずる。次に、教員の職務内容や教育職員免許法の内容（免許の種類や養成）、教員の服務義務と身分保障を扱う。さらに、法定研修も含めた研修のあり方と学校内での「同僚性」と「チーム学校」について扱い、実際の教員や他職種との比較を取り入れて、最後に教職の意義を再考する機会を設ける。

達成目標

①現代において教員が果たすべき役割や求められる資質能力を理解する。②教職員免許に関する制度、教員の服務義務や身分保障を理解する。③教員の多様な職務内容と研修制度、「学び続ける教員」の意味について理解する。④学校内における教職員との「同僚性」形成、学校に関わる多様な専門家・関係者や地域の人々との協働関係の重要性を理解する。⑤他の職業との比較も行いながら、教職という職業の特徴や存在意義を理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンスと導入講義：受講生がこれまでに教職者に関わってきた経験の振り返り
- 第2回 教職の意義① 教師とは？教師の仕事とは？
- 第3回 教職の意義② 教師観の変遷と今の教師の現状
- 第4回 教員養成と教員免許状制度の仕組み、教職への道
- 第5回 教員に必要な資質能力
- 第6回 教員の地位と身分① 身分保障と服務義務
- 第7回 教員の地位と身分② 教員の任命権者と勤務条件
- 第8回 教員の学びと研修制度
- 第9回 学校の組織① 学校職員構成、校務分掌、教員の同僚性からチーム学校へ
- 第10回 学校の組織② 学校評価、学校と他機関との連携を目指す教師像を考える
- 第11回 中間試験（教職に関わる基礎事項のまとめ）
- 第12回 教員という職の特性① 教員の専門職性、同僚性
- 第13回 教員という職の特性② 教員の文化、他の職との比較（ワークショップ）
- 第14回 中間テストの振り返りと教師論議（グループ・ディスカッション）
- 第15回 総括、教職への道と自らの適性

教科書・参考文献

- 教科書 ・ 毎回、書き込み式講義ノート及び資料を配布するが、可能ならば、次の教科書を購入しておくこと。
。佐藤晴雄著(2018)『教職概論（第5次改訂版）』学陽書房。
- 参考書 ・ 授業内容や期末レポートに参考になる資料等は必要に応じて授業中に紹介する。

授業外での学習

- ・ 第1回のガイダンスにて、毎回の授業内容をより深く理解するため、読んでおくべき教科書の範囲や、課題の詳細についての説明を行う。その内容に従い、毎回事前に教科書または資料をあらかじめ読んでおくこと（30分）。

評価方法

- ・ 評価方法は、小レポートと課題が30%、中間テストが40%、期末レポートが30%とする。
- ・ 中間テストは上記の達成目標②③を測るための知識・理解を問う。期末レポートは達成目標①、④、⑤を測るため、授業内容の理解度や具体例、自らの意見を妥当な根拠をもって論述しているかを評価基準とする。

履修上の注意

- ・ 教職課程の導入科目である。教職課程の履修の相談にも応じる。
- ・ 授業では、オンラインで意見を提示したり情報収集を頻繁に行うでの情報機器を持参すること。
- ・ 平日頃から教師や学校への関心やそれらの最新情報の収集に努めること。
- ・ 授業は、一方的な講義だけでなくグループワークなども随所に行うので、積極的な姿勢を期待する。

科目名 教育経営論
Title The Educational Administration
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

現代の公教育は、法に基づいて運営されており、教育をめぐる諸問題を社会的な文脈で理解する際には教育法規についての基礎的な理解が不可欠である。また学校は、そうした法規、制度を基盤に運営されている。そこで本講義では、現代日本の教育法規の概要を理解したうえで、教育経営、学校経営にかかわる具体的な諸問題を理解し、自らの視点で考察していく力を養うことを目的として設定する。

達成目標

- 教育、あるいは学校の運営の仕組みについて理解できるようになること。
- 学校現場における具体的事例に対して、法的根拠に基づいた理解ができるようになること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション（法から学ぶ教育経営）
- 第2回 教育の基本理念①（日本国憲法における教育関連規定など）
- 第3回 教育の基本理念②（教育基本法、学校教育法など）
- 第4回 教育行財政①（中央・地方の教育行政組織、学校設置者など）
- 第5回 教育行財政②（学校財務、学校事務職員など）
- 第6回 学校教育に関する規定と学校経営①（学校の種類、学校組織編制など）
- 第7回 学校教育に関する規定と学校経営②（校内研修、学校評価、教員評価など）
- 第8回 教職員に関する規定①（免許制度、県費負担教職員など）
- 第9回 教職員に関する規定②（服務、研修など）
- 第10回 児童・生徒に関する規定と学級経営（懲戒、体罰、効果的な学級経営など）
- 第11回 教育内容・教科書に関する規定（教育課程編成、学習指導要領、教科書制度など）
- 第12回 開かれた学校づくり
- 第13回 学校保健・安全に関する規定（伝染病予防、健康診断、学校給食など）
- 第14回 学校の危機管理
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。資料等を配布する。

参考書 参考書・参考資料等は授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

授業前：関連する雑誌、新聞記事等に目を通すよう心がけること。
授業後：配布した資料等を再度確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

評価方法としては、期末試験（60％）と平常点（40％）により評価する。平常点は、講義内で実施するリアクションペーパー（小課題）、授業態度・授業への貢献度等によって評価する。
評価基準としては、達成目標に照らして判定する。また、授業で取り扱った内容等が確実に身につけているか、

履修上の注意

- 発言を求めることが多くなるので、自らの考えをもち、積極的に参加することを求める。
- 教育問題に関心を持ち、日頃から新聞等に目を通すことを求める。
- 授業と関係のない私語等は厳禁とする。

科目名 教育政策論
Title Educational Policies
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

E-Mail

配当年次
2～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

本講義は、教育行政学、教育社会学、教育制度論に基づく知識から、教育活動の枠組みとしての社会的、制度的、経営的な事項について学ぶことを目的とする。人々の学びを保障する諸条件整備のための力学と仕組みづくりを把握した上で、現代社会において教育行政機関と学校とがどのような働きをしているのかを整理し、我が国あるいは地方自治体、各地域の教育政策の方向性を研究する力を養う。加えて、諸外国の教育政策の動向を鑑み、グローバル化が進みかつ成熟された社会にとって必要な教育のあり方について考える。

達成目標

1. 公教育制度の原則、教育行政の組織と役割、学校組織の基礎的な知識を修得し理解している。2. 現代の社会の状況と子どもの学びの環境の変化について説明することができ、それに伴って教育制度がどのように変革しているのか、かつ今の学校が抱えている問題は何なのか、自ら見出し論じることができる。3. 学校と地域との連携の意義と課題、学校の危機管理の必要性和手法を、事例を踏まえながら論じることができる。

スケジュール

第1回 オリエンテーション:講義の概要と進め方、評価方法の説明、公教育制度の原則、子どもと学校をめぐる状況
第2回 社会の動向と教育政策①: 今求められる「学び」とは
第3回 社会の動向と教育政策②: 世界の動向
第4回 社会の動向と教育政策③: 日本はどちらに進むべきか?
第5回 公教育制度の概念: 教育の公共性と私事性
第6回 公教育制度の概念: 教育の校正とは
第7回 教育行政制度: 教育行政の定義、国の教育行政を担う機関の仕組みと機能
第8回 教育行政制度: 地方の教育行政を担う機関の仕組みと機能、諸外国との比較
第9回 教育行政制度: 地方分権と地方自治体の教育改革、学校ガバナンス
第10回 教育財政制度: 教育費の原則と教育予算
第11回 教育行政と財政のまとめ: 国と地方の関係
第12回 学校と地域社会①: 学校と地域づくり、協働の意義と事例(安全管理も含む)
第13回 学校と地域社会③: 地域の教育施策や教育の諸課題を考える(グループワーク)
第14回 新自由主義と教育政策の動向①: 学校及び教育施設の多様化、行政やNPO等による子ども支援
第15回 新自由主義と教育政策の動向②+総括: グループワーク②、全体の振り返り

教科書・参考文献

教科書 特に定めない。毎回講義資料とともに、単元ごとの用語解説と論述練習用のノートを配布する。

参考書 ・村上祐介(他著)『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020年
・加藤崇英(編著)『新訂版 教育の組織と経営』学事出版、2017年

授業外での学習

・授業後は、論述練習用のノートを活用して要点と自らの意見をまとめておくこと。また、課題では、授業の振り返り、授業内の理解度チェック、応用問題を出题するので、各授業後速やかに取り組むこと。
・授業にて意見等や情報収集などを求めるので、平日頃からメディア等などで教育政策に関わる情報を収集して

評価方法

評価方法は、授業の振り返りや理解度チェック、応用問題などの課題やワークショップが50%、定期試験が50%である。加えて、授業への貢献度や課題遂行能力が高い者に対して加点をする。期末試験では、到達目標に合わせた論述問題で、授業内全体の理解度を問う。

履修上の注意

・授業では、オンラインで意見を提示したり情報収集を頻繁に行うでの情報機器を持参すること。
・グループワークを数回行う予定である。その準備として、日頃から関連する書籍や新聞、専門誌に目を通すことを期待する。
・授業は、履修者とのディスカッションを通して進めていくため、講義のテーマもしくは内容が前後することが

科目名 生涯学習概論
Title Lifelong Learning
科目区分 教職関連科目

担当教員
教授 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

生涯学習とは、少子高齢化など、急激な社会構造の変化への対応という観点から、従来の日本の教育システム（学校教育・社会教育・家庭教育等）を総合的に再編成するものである。生涯学習の理念とその展開には、諸外国それぞれ固有のものがあるが、日本における生涯学習とはどのように導入され、具体的な制度・政策の中に現われているのであろうか。これを社会教育（行政・施設・地域学習等）、学校教育（教育課程、学力・評価等）の構造・変容や現代の地域づくり実践等との関連から着目し、現代社会における生涯学習の意味と展開について考察する。講義では、生涯学習論に必要な基礎知識として学校教育及び社会教育の法制度に関する説明も随時加える。

達成目標

本講義では、①学校以外の社会において人々の多様な学びがあることを理解できること、②生涯学習の方法や支援者の役割について理解できること、③生涯学習の理念及び日本の生涯学習政策の特徴や課題について理解できることを達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 学校教育と「成人の学習」：日本社会における教育・学習 コミュニティ
- 第3回 生涯学習の理念（1）：ポールラングランレポート
- 第4回 生涯学習の理念（2）：学習社会論
- 第5回 生涯学習の理念（3）：フォール報告書
- 第6回 社会教育とは何か：社会教育法概説
- 第7回 生涯学習と社会教育：学習の主体 / 行政 / 原理
- 第8回 日本における生涯学習政策の形成（1）：「生涯教育」の登場と経済界の動き
- 第9回 日本における生涯学習政策の形成（2）：臨時教育審議会答申
- 第10回 日本における生涯学習政策の形成（3）：生涯学習振興法
- 第11回 生涯学習の実践と公共性：学習内容 / 方法 / 支援者
- 第12回 リカレント教育と大学・自治体・企業：生涯学習社会に果たす大学、企業、自治体との役割
- 第13回 まちづくりと生涯学習：自治体生涯学習の特徴と課題
- 第14回 分権時代の生涯学習：分権社会による生涯学習への要請とその課題
- 第15回 まとめ：これからの生涯学習とは

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 田中雅文他著『テキスト生涯学習』学文社、2020年、『社会教育・生涯学習ガイドブック第9版』エデル研究所、2017年 ほか。

授業外での学習

次回の講義に関連する内容について講義内で指定（配布）した資料など予習をしておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着に取り組むこと。

評価方法

評価方法は、平常点（授業の取組み）及び小テスト・レポート等の課題40%、期末試験60%をもとに総合的に評価する。また、達成目標に挙げた各項目について、小テストやレポート（①②③）及び期末試験（②③）において講義内容を踏まえた論述ができるかを評価基準とする。

履修上の注意

特に教科書は使用せず適宜必要な資料等を多く配布するため、各自がよく整理をして積極的に講義に参加すること。

科目名 地域づくり教育論
Title Education for Community Development
科目区分 教職関連科目

担当教員 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)
教授 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

近年、少子高齢化、過疎、環境問題、国際化、子育てなどの地域課題の深刻化とともに、市民参加や協働(パートナーシップ)によるまちづくり、青年世代や団塊世代の労働や社会参加、あるいは、地域コミュニティの再生・創造に向けた様々な実践が各地で展開しつつある。そこではまた、地域づくりに対応した学習や社会参加活動が実践的に追求されている。社会参加の推進は生涯学習社会を具体的に支える重要な要素となる。本講義では、ボランティア(図書館・博物館等の施設ボランティア含む)、市民活動・NPO、学社融合、大学開放などの新たな社会をつくる学びについて着目し、その特性への理解を深める。特に、NPOの教育力を取り上げ、地域づくりにかかわる具体的な実践をもとに、現代社会における学習の共同性や公共性を再検討し、分権時代に果たす生涯学習の役割を展望する。

達成目標

日本の生涯学習政策の課題への理解を前提としながら、①ノンフォーマル教育の特性を理解できること、②NPOの社会的な存在意義及びその教育力の特性が理解できること、③具体的事例の検討を通して、現代生涯学習に果たすNPOの可能性と課題について説明できることを達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン : 講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 生涯学習政策の展開と市民の学び : 国家・市場・地域と教育・学習 コミュニティ
- 第3回 ボランティア・NPOと生涯学習 : なぜ今、NPOなのか / NPOの実践と生涯学習
- 第4回 生涯学習社会と地域づくり教育(1) : 家庭教育・学校教育・地域づくり教育
- 第5回 生涯学習社会と地域づくり教育(2) : Non Formal Educationの構造と機能
- 第6回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(1) : NPOの組織特性・社会教育的性格
- 第7回 NPO / 市民活動の学習内容・方法(2) : NPOの組織構造と「参加」
- 第8回 規制緩和・地方分権と生涯学習 : 民営化戦略としてのNPO
- 第9回 NPOの教育力 実践事例(1) : 地域コミュニティ再生とNPO
- 第10回 NPOの教育力 実践事例(2) : 社会教育施設運営とNPO
- 第11回 NPOの教育力 実践事例(3) : 中間支援組織(施設)における教育・学習
- 第12回 NPOの教育力 実践事例(4) : 地域生涯学習を支える人材・組織の課題と展望
- 第13回 地域コミュニティ再生と生涯学習 : 東日本大震災・復興支援の実践から
- 第14回 分権社会における生涯学習システム 地域をつくる市民の学び
- 第15回 まとめ : 現代生涯学習の展望と課題

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 次のほか適宜講義内で紹介する。佐藤一子編『NPOの教育力』東京大学出版会,2004年、松田武雄編著『現代の社会教育と生涯学習』九州大学出版会,2013年、太田美幸他編『ノンフォーマル教育の可能性』

授業外での学習

今回の講義に関連する内容について講義内で指定(配布)した資料など予習をしておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着に取り組むこと。

評価方法

評価方法は、平常点(授業の取組み)及び小テスト・レポート等の課題40%、期末試験60%をもとに総合的に評価する。また、達成目標に挙げた各項目について、小テストやレポート(①②)及び期末試験(①②③)において講義内容を踏まえた論述ができるかを評価基準とする。

履修上の注意

- ◇「生涯学習概論」の内容を前提とした講義展開のため、「生涯学習概論」を受講していることが望ましい。
- ◇講義は、適宜必要な資料等を取り上げるとともに、できるだけ具体的な事例に即して考えていく。

科目名 教育制度論
Title The Educational System
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1～4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 前期
-------------	-------------	----------	------------

目的

近年教育改革は、国と地方問わずさまざまなレベルにおいて重要な課題として取り組まれている。改革をめぐる議論において何が問題とされ、何が行われようとしているのか。また、改革は結果として教育の場になにをもたらすのか。本講義は、現代社会における教育問題・事象について理解し、それらに対する自分自身の考えを持つこと、また他者と議論できるようになることを目指す。身の回りの「教育的」事項に気づき理解できるようになること、現代の教育の仕組み、制度について理解できるようになること、自分自身の教育観を持つことができるようになることを目的とする。

達成目標

- 現代の教育の制度について、理解することができること。
- 公立初等中等学校の現状、抱える問題等について理解することができること。
- それらに対する自分自身の考えを持ち、他者と議論できるようになること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の領域・場所・目的
- 第3回 学校制度と義務教育
- 第4回 教育制度・行政・政策
- 第5回 教育行政組織 - 中央・地方 -
- 第6回 学校組織と学校経営
- 第7回 公立学校教員の職務と教員文化
- 第8回 教師教育
- 第9回 教育課程と学力問題
- 第10回 子どもの貧困と教育
- 第11回 いじめ問題、不登校
- 第12回 メディアと教育
- 第13回 学校をめぐる諸問題
- 第14回 生涯学習社会
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。資料等を配布する。

参考書 参考書・参考資料等は授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

授業前：関連する雑誌、新聞記事等に目を通すよう心がけること。
授業後：配布した資料等を再度確認し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

評価方法としては、期末試験（60％）と平常点（40％）により評価する。平常点は、講義内で実施するリアクションペーパー（小課題）、授業態度・授業への貢献度等によって評価する。
評価基準としては、達成目標に照らして判定する。また、授業で取り扱った内容等が確実に身についているか、

履修上の注意

- 発言を求めることが多くなるので、自らの考えをもち、積極的に参加することを求める。
- 教育問題に関心を持ち、日頃から新聞等に目を通すことを求める。
- 授業と関係のない私語等は厳禁とする。

科目名 発達心理学
Title Developmental Psychology
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 小池 庸生 (コイケ ノブオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

人間を理解するために、行動や心的機能の発生・発達成熟過程の一般的法則および各発達段階における心身の発達と学習の過程を学ぶと共に、障害者（児）の心身の発達・学習過程についても学ぶ。

達成目標

発達とは何かということから始めて、人の一生についての理解を深めること、さらに自分の将来像を構築するための指標にできることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 I. 発達心理学の基礎 1
- 第3回 I. 発達心理学の基礎 2
- 第4回 II. 身体と運動機能の発達 1
- 第5回 II. 身体と運動機能の発達 2
- 第6回 II. 身体と運動機能の発達 3
- 第7回 III. 知的機能の発達 1
- 第8回 III. 知的機能の発達 2
- 第9回 III. 知的機能の発達 3
- 第10回 IV. 人間性の発達 1
- 第11回 IV. 人間性の発達 2
- 第12回 V. 社会性の発達 1
- 第13回 V. 社会性の発達 2
- 第14回 VI. 発達と学習
- 第15回 VII. 発達の障害と問題、まとめ

教科書・参考文献

教科書 使用しない

参考書 適宜、講義内で紹介する

授業外での学習

発達心理学に関係する本を読むこと。
理解を薦めるために、子どもから大人までの行動をよく観察してみること。

評価方法

評価方法は、定期試験が80%、授業への取り組みが20%。
評価基準は、定期試験で満点の60%以上を取ること。

履修上の注意

そのときどきの状況や必要性に応じて、授業計画を変更して行うことがある。

科目名 特別支援教育
Title Special Needs Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 峯岸 幸弘 (ミネギシ ユキヒロ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

特別支援教育について広く学び、それぞれの障害の特性について深く学ぶとともに、その支援方法を身につける。また、特別支援学校に勤務した経験から、肢体不自由児の自立活動の指導、重度重複障害児の学習や摂食指導、知的障害児の学習などについて、また通級指導教室に勤務した経験から、構音障害や吃音などの言語障害児における様々な指導や、難聴児の学習指導、緘黙やチックなどの情緒障害児の指導、ASDやADHDやLDなど発達障害児の指導、それから不登校児童生徒の指導などの経験から、実際の指導場面のVTRを見せながら、様々な障害に対する正しい理解とその指導方法、及び保護者相談についても含めて講義を行う。

達成目標

- ・それぞれの障害に対する基本的な知識を有し、心身の発達、心理特性及び学習について理解できる。
- ・「通級による指導」における「自立活動」において、教育課程上の位置づけと内容を活用できる。
- ・インクルーシブ教育の観点から、外国籍の児童や貧困家庭の児童に対する対応について理解できる。

スケジュール

- 第1回 特別支援教育の多様化
- 第2回 ASDについての基礎的な知識とその指導法
- 第3回 ASDの指導事例
- 第4回 ADHDについての基礎的な知識とその指導法
- 第5回 ADHDの指導事例
- 第6回 LDについての基礎的な知識とその指導法
- 第7回 LDの指導事例
- 第8回 OCDについての基礎的な知識とその指導法
- 第9回 言語障害についての基礎的な知識とその指導法
- 第10回 情緒障害児についての基礎的な知識とその指導法
- 第11回 聴覚障害児についての基礎的な知識とその指導法
- 第12回 盲聾障害について事例1
- 第13回 盲聾障害について事例2
- 第14回 重度重複障害児の摂食指導
- 第15回 インクルーシブ教育

教科書・参考文献

教科書 教科書は使用しない

参考書 参考書は使用しない

授業外での学習

- ・当該授業内容について事前に簡単な知識を得ておくこと。授業後は内容理解を深めるための復習を行うこと。

評価方法

- ・評価方法は、平常点（授業への取り組み）10%、期末試験（レポート試験）90%。
- ・平常点（授業への取り組み）は、授業内での取り組み方、質問や意見の内容を評価基準とする。
- ・期末試験（レポート試験）は、具体例を挙げた論述ができるかを評価基準とする。

履修上の注意

実際の指導場面のVTR視聴を行うので、教育現場の実際について常に身近に考えるように努めること。

科目名 カリキュラム論
Title Curriculum Studies
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 大佐古 紀雄 (オオサコ ノリオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1～4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

高等学校までの学習の法的基準となる学習指導要領は、長年「生きる力」を中心概念としながら、「ゆとり教育」「脱ゆとり教育」と方針の揺れを経験してきた。そして現行指導要領では、「社会に開かれた教育課程」「力・リキキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニング」が主なキーワードとなる大幅な改革がなされた。受講生には、日本の学校における学習の規定のされ方の歴史に加えて、こうした新しい理念を理解することも求められる。しかし、一方で「そもそもカリキュラムとは何か」という普遍性を強く帯びたカリキュラム理解が欠かれない。本講では、カリキュラム（教育課程）に焦点を当て、カリキュラムとは何か、種類、編成原理や手順、発達の考慮、教科書と教育環境、学習指導要領の変遷と現在について、周辺的事項とつなぎつつ、できるだけ具体的な事例も使って考えてみたい。

達成目標

上記の目的に則して、カリキュラムの意味や種類、編成の原理や手順、現在までの学習指導要領の変遷について理解できる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション / カリキュラム概念の概要Ⅰ（学習指導要領など）
- 第2回 カリキュラム概念の概要Ⅱ（カリキュラム・マネジメント、コンピテンシーなど）
- 第3回 何を基準にカリキュラムの内容を選ぶのかⅠ
- 第4回 何を基準にカリキュラムの内容を選ぶのかⅡ
- 第5回 カリキュラムを編成するための考え方Ⅰ
- 第6回 カリキュラムを編成するための考え方Ⅱ
- 第7回 子どもの発達をカリキュラムに活かすⅠ
- 第8回 子どもの発達をカリキュラムに活かすⅡ
- 第9回 カリキュラムと教科書・教育環境
- 第10回 カリキュラムの評価 / カリキュラムの履修スタイルⅠ
- 第11回 カリキュラムの履修スタイルⅡ
- 第12回 日本の教育課程改革の歴史と学習指導要領の変遷Ⅰ
- 第13回 日本の教育課程改革の歴史と学習指導要領の変遷Ⅱ
- 第14回 現行学習指導要領の理念を理解するⅠ
- 第15回 現行学習指導要領の理念を理解するⅡ

教科書・参考文献

教科書 田中耕治編『よくわかる教育課程（第2版）』、ミネルヴァ書房、2018

参考書 文部科学省『中学校学習指導要領解説・総則編』、東山書房、2018
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・総則編』、東洋館出版社、2019

授業外での学習

本講は、多くの教職科目との関連性が非常に深い性質を持つ。そのため、すでに学んだ科目や同時並行で学ぶ科目で学んでいる内容との関連を日頃から意識しておくこと、より効果的な理解が期待できる。また、学校教育に関わる現代的・時事的トピックに、鋭敏なアンテナを張っておくことも重要である。

評価方法

評価方法：①定期試験（筆記試験形式・持込不可）70% ②平素の授業態度（授業内で課す「ワーク&リフレクション・シート」含む）30%

評価基準：評価方法①は、達成目標に照らしての知識の定着度や知識を活用しての思考力を確認するために使

履修上の注意

- 受講生の状況や時事的な動向、授業の進度などによって、スケジュールや内容を、関係法令や本学のルール及び本講の目的から逸脱しない範囲で変更することがある。
- 昨今の学校教員に対する社会からのまなざしの厳しさをわきまえた受講姿勢を望む。
- 授業の内容やルールの詳細については、初回授業のオリエンテーションにおいて説明を行う。

科目名 道徳教育論
Title Moral Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 中山 和彦 (ナカヤマ カズヒコ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

栃木県小山市立公立小学校、宇都宮大学教育学部附属小学校における教員・管理職経験及び小山市教育委員会指導主事としての教育施策立案経験を生かし、学校教育全体で行う道徳教育とその要となる「特別の教科 道徳」(以下 道徳科とする)の意義と指導法、道徳科授業の目標と指導法及び評価の在り方と方法、学習指導案作成の手順と方法について講義を行う。また、道徳の特別教科化の大きな要因となった「いじめ」の未然防止及び対処について、道徳教育の観点から考えて具体的な方法について理解することを目的とする。

達成目標

(1) 学校教育全体で行う道徳教育の目標を理解できる。(2) 道徳教育の要となる道徳科の目標について説明できる。(3) 道徳科授業の進め方と学習指導案作成の手順と方法を理解して、指導案(略案)を作成できる。(4) 道徳科の評価の在り方と方法を理解できる。(5) 「いじめ」の未然防止及び対処法について理解して説明できる。

スケジュール

- 第1回 道徳及び道徳教育の本質、教育基本法と道徳教育、自分にとっての道徳と道徳教育の役割
- 第2回 道徳性の定義、道徳性の発達、道徳性と自分との関わり
- 第3回 道徳教育と道徳科の目標、指導計画、今までの道徳授業に関わる問題点
- 第4回 道徳科の特質、道徳の内容と基本的性格(学習指導要領)と自分との関わり
- 第5回 「いじめ」の未然防止についての考え方と方法、学級経営におけるいじめを予防する道徳教育の進め方・「安心、安全、居がいがある学級づくり」における教師のあり方(ヒドウンカリキュラム)
- 第6回 担当者による模擬授業「いじめと向き合う」を基に、いじめについて自分の問題として考える。・年間指導計画をもとに、いじめに関わる道徳科を計画的・発展的に行う。
- 第7回 道徳科授業における指導過程の基本型、道徳科の特質を大切にしながら柔軟な授業構想(第1回「自我関与」を中心とした指導についての考え方と方法)
- 第8回 道徳科の特質を大切にしながら柔軟な授業(第2回 問題解決的な学習)、学習指導案作成の内容と方法(第1回)・最重視する「主題設定の理由」と教師の明確な指導観
- 第9回 学習指導案作成の内容と方法(第2回)、本時の展開案作成(グループ協議、個別指導)(第1回)・本時のねらい設定の仕方と発問構成の仕方・発問(基本発問、中心的な発問)・教材の役割
- 第10回 本時の展開案作成(グループ協議、個別指導)(第2回)。本時の展開における発問の検討・手段としての学習活動の工夫(目的と手段の関係の吟味)
- 第11回 道徳科の板書の理論と方法、代表者(小グループ)による模擬授業と全体協議(第1回)
- 第12回 模擬授業と全体協議(第2回)道徳科授業づくりのポイント(ねらい、評価、発問)・生徒に深く考えさせる発問の工夫・生徒の発言を基にした柔軟な展開
- 第13回 道徳教育及び道徳科授業づくりと評価の意義と方法(第1回)・・・基本的な考え方
- 第14回 道徳科授業づくりと評価(第2回)・・・指導と評価の一体化
- 第15回 道徳科授業づくりと評価(指導要録と学びの姿への記述)、講義全体のまとめ

教科書・参考文献

- 教科書 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編(文部科学省)教育出版(担当者が必要など所を印刷して配布する。)
- 参考書 『学習指導要領 総則編』『私たちの道徳 中学校』 以上文部科学省

授業外での学習

- ・次回に使用する資料の一部を事前にTeamsにアップする。事前に確認して予習する。(必要な時間を指示)
- ・講義で示す「重要事項」の内容等について復習する。(必要な時間を指示)

評価方法

- 1 定期試験 50%
- 2 受講態度 50% (1) リアクションカードへの記述(講義3回分、計5回「学習履歴」をまとめる。)
- ・重要事項を明記(5点)・自分との関わりを重視して考えを明記(5点)計10点 5回分50点 計100%

履修上の注意

- ・道徳は、教師と生徒共通の「人間としてよりよく生きる」ための課題であると自覚する。
- ・中学校の教室と同じ状況をつくり、生徒への関わり方を学べるようにする。
- ・講義担当者として「遅刻なし、延長なし」「受講者の学ぶ態度育成」を最重視する。
- ・受講者は私語厳禁、話を聴く力、自分との関わりで考えを表現できるようにすること。

科目名 総合的な学習の時間の指導法
Title Teaching Method of Period for Integrated Studies
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 田口 哲男 (タグチ テツオ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

本授業の目的は、中学校・高等学校における総合的な学習(探究)の時間の意義、目標、指導方法などを理解するとともに、それらを教育現場で実践的に活用できる力を身に付けることを目的とする。また、高等学校、教育委員会での実務経験等を活かし、学校現場における課題やその解決のための視点に基づく解決策を導き出す方法を踏まえて講義を行う。

達成目標

①「学習指導要領改訂の経緯」「育成を目指す資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」等を理解する ②探究の過程を経ることで、課題を発見・解決するための能力をはじめ、様々な資質・能力を身に付けることができることを理解する ③総合的な学習の時間の変遷、探究の過程の高度化、学習者の自律性について学ぶことで探究学習を深化させるとともに、活用力・実践力を養う

スケジュール

第1回：授業全体の概要、自己調整学習、学習指導要領が目指す方向
第2回：主体的な学び(メタ認知、自己効力感、自己決定論)
第3回：ブルーム・タキソノミー、対話的な学び、深い学び
第4回：オーセンティックな学び、育成を目指す資質・能力
第5回：カリキュラム・マネジメント、総合的な学習の時間の目標の課題(変遷、目標の趣旨)
第6回：総合的な学習(探究)の時間 探究(探究的な学習)の過程
第7回：総合的な学習(探究)の時間 課題の設定①
第8回：総合的な学習(探究)の時間 課題の設定②(考えるための技法①)
第9回：総合的な学習(探究)の時間 情報の収集
第10回：総合的な学習(探究)の時間 整理・分析①(データを読み解く)
第11回：総合的な学習(探究)の時間 整理・分析②(考えるための技法②)
第12回：総合的な学習(探究)の時間 まとめ・表現
第13回：総合的な学習(探究)の時間 実践事例で考える
第14回：総合的な学習(探究)の時間 学習指導要領を読み解く
第15回：総合的な学習(探究)の時間 評価(多面的・多角的な評価等)
定期試験

教科書・参考文献

教科書 『探究-理論と演習』田口哲男(一藝社)2021年
『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編及び総則編』文部科学省
参考書 『高校における学びと技法』田口哲男(一藝社)2019年

授業外での学習

『探究-理論と演習』、『高校における学びと技法』を精読し、その内容を踏まえて授業に臨むこと。なお、『探究-理論と演習』についてはレポート課題あり、評価の対象とする。

評価方法

評価方法・評価の割合については、毎回提出された「授業ワークシート」の内容及び「指定したレポート課題」の内容(約70%)、「期末試験」の結果(約30%)である。それらを総合して60%以上になれば達成目標まで到達したと評価する。

履修上の注意

「授業ワークシート」により見通しや振り返りを繰り返すことにより自己調整能力を養う。事前にアップロードされている資料を読み、授業において「授業ワークシート」を作成することにより、予見段階で、授業の見通し、また、遂行段階で、最初に立てた授業計画に基づき、その内容を整理し、自己内省段階で、授業における自己評価により理解度や達成度をチェックすることにより振り返ることにより自己調整学習を行う。「探究-理論と演習

科目名 特別活動
Title Extraclass Activities
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 田口 哲男 (タグチ テツオ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、各活動・学校行事で生じる多様な集団において、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点を手掛かりとしながら、集団や自己の生活上の課題を解決するときに必要な学習の過程を通して、資質・能力を育成することについて学ぶ。特に、「なすことにより学ぶ」「合意形成」「意思決定」「自律性」については、知識として身に付けだけではなく活用できる力まで高めて、実践できるようにすることを目的とする。また、高等学校、教育委員会での実務経験等を活かし、学校現場における課題やその解決のための視点に基づく解決策を導き出す方法を踏まえて講義を行う。

達成目標

- ①「なすことにより学ぶ」「集団や社会の形成者としての見方・考え方」「育成を目指す資質・能力」等を理解する
- ②各活動や学校行事における多様な集団において、集団や自己の生活上の課題を解決するために学習の過程（話し合い活動、合意形成・意思決定など）を通すことで、資質・能力が育成されることを理解する
- ③自律性や主体性について知識として理解するとともに、どのようにしたら涵養できるかを思考する

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 第1回：授業全体の概要、主体的な学び、自己調整学習など |
| 第2回 | 第2回：自己決定論、メタ認知、リフレクション（振り返り）など |
| 第3回 | 第3回：対話的な学び、深い学び、オーセンティックな学び、社会的構成主義など |
| 第4回 | 第4回：育成を目指す資質・能力の3つの柱、キーコンピテンシーなど |
| 第5回 | 第5回：カリキュラム・マネジメント、特別活動にかかる改訂の趣旨及び要点 |
| 第6回 | 第6回：特別活動の目標（学習の過程、育成を目指す資質・能力、3つの視点など） |
| 第7回 | 第7回：特別活動全体と各活動・学校行事との関係、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」 |
| 第8回 | 第8回：ホームルーム/学級活動の目標、内容、学習の過程 |
| 第9回 | 第9回：話し合い活動、合意形成・意思決定、なすことによって学ぶなど |
| 第10回 | 第10回：特別活動とキャリア教育、特別活動と生徒指導 |
| 第11回 | 第11回：生徒会活動の目標、内容、学習の過程 |
| 第12回 | 第12回：学校行事の目標、内容、学習の過程 |
| 第13回 | 第13回：特別活動を担当する教師の役割 |
| 第14回 | 第14回：学習指導要領（特別活動）を読み解く |
| 第15回 | 第15回：特別活動における学習状況評価 |

教科書・参考文献

- | | |
|-----|---|
| 教科書 | 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』文部科学省
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編』文部科学省 |
| 参考書 | 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』文部科学省
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』文部科学省 |

授業外での学習

中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編と総則編、『高校における学びと技法』を精読する。なお、についてはレポート課題あり、評価の対象となっている

評価方法

評価方法・評価の割合については、毎回提出された「授業ワークシート」の内容及び「指定したレポート課題」の内容（約70％）、「期末試験」の結果（約30％）である。それらを総合して60％以上になれば達成目標まで到達したと評価する。

履修上の注意

「授業ワークシート」により見通しや振り返りを行うことで自己調整能力を養う。事前にアップロードされている資料を読み、授業において「授業ワークシート」を作成することにより、予見段階で、授業の見直し、また、遂行段階で、最初に立てた授業計画に基づき、その内容を整理し、自己内省段階で、授業における自己評価により理解度や達成度をチェックすることにより振り返ることで自己調整学習を行う。「高校における学びと技法」

科目名 情報通信技術と教育
Title Information and Communication Technology in Education
科目区分 教職関連科目

教授 担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

社会で求められる情報リテラシーは年々高度化し、学校教育においても、この動向に対応できる人材育成ならびに教員養成が求められている。また、学習指導要領で言明されている「主体的で対話的な深い学び」「個別最適な学び」において、情報通信技術（ICT）の導入が学びの可能性を大きく開くことは想像に難くない。本授業では、ICTを活用した教育実践について学術的な位置づけと基本的技術を学び、各教科の指導法へとつなげていくことを目的とする。

達成目標

学校におけるICT利活用の意義、重要性、注意点について理解する
PC、タブレット等のICT機器を使い、基本的な操作手順を習得する

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ICTの教育的活用に関する議論
- 第3回 授業での活用（1）デジタルコンテンツの作成（プレゼンテーション作成）
- 第4回 授業での活用（2）デジタルコンテンツの利用（画像、動画編集）
- 第5回 授業での活用（3）デジタルコンテンツの共同編集と評価（クラウド、Forms）
- 第6回 模擬授業1
- 第7回 模擬授業2
- 第8回 校務での活用（1）記録管理（表計算ソフト）
- 第9回 校務での活用（2）文書作成と配布（PDF作成）
- 第10回 校務での活用（3）広報の公開（ホームページ作成）
- 第11回 成果発表
- 第12回 学習環境のデザインとデジタル化（教室でのICT活用）
- 第13回 学習環境のデザインとデジタル化（個別最適な学びの支援）
- 第14回 ICT利用とモラル・セキュリティ
- 第15回 総括

教科書・参考文献

教科書 特に指定なし。必要な資料は配布する。

参考書 堀田龍也他（2020）学校アップデート—情報化に対応した整備のための手引き さくら社
藤本かおる（2019）教室へのICT活用入門 国書刊行会

授業外での学習

ICTに関する教育方針は変動が激しいため、日頃から教育に関する情報について収集すること。パソコン等のデバイス操作について、苦手なものは自主的に練習すること。特にブラインドタッチが問題なく行えるようにすること。

評価方法

評価方法は、各回での授業参加態度（50%）、実習課題の提出（50%）である。評価基準は、模擬授業や成果発表において聴衆にわかりやすく伝えられること、実習課題についてはICTの適切な活用や工夫が練り込まれていることとする。

履修上の注意

実習に関する質問は、学籍番号に基づきグループに分け、時間を指定する。授業内で指示があるので各自の質問時間帯を確認すること。

科目名 教育方法学
Title Methodology of Teaching
科目区分 教職関連科目

担当教員 内山 知一 (ウチヤマ トモカズ)
准教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

授業法やその変遷、背景にある諸概念などの検討で教育方法・技術に習熟し、学校での経験を元に得た学びなども踏まえて、授業作りで求められるスキルを養う。

達成目標

- ・ 主な授業法の概観やその変遷などを把握できている。
- ・ 授業事例をさまざまな観点でとらえられる。
- ・ 学習指導案作りや優れた授業の特徴の検討で、機器の扱いも含む、授業作りで求められるスキルを習得できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 授業の歴史・現状①
- 第3回 授業の歴史・現状②
- 第4回 さまざまな授業形態とその背景
- 第5回 授業の技術（発問、板書など）と子どもの意欲
- 第6回 有効な教材とその準備
- 第7回 授業環境（クラスの環境、その他）の変容とその影響
- 第8回 メディアリテラシー
- 第9回 ICTとその利点・課題
- 第10回 授業での評価のあり方
- 第11回 授業設計①指導案の意義・形式（例）と立案
- 第12回 授業設計②指導案の発表・検討
- 第13回 授業設計③授業デザインの振り返り
- 第14回 授業設計④修正事項・留意点などの確認
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布します。

参考書 文部科学省『中学校学習指導要領』（2017）
文部科学省『高等学校学習指導要領』（2018）

授業外での学習

事前・事後に振り返り・まとめ・次週の確認などをすすんでやること。

評価方法

参加度（発表や提出物など：50％）、試験（50％）
各目標に照らし、講義で身につけたことを踏まえて有効な取り組みができたかで評価します。

履修上の注意

無断での遅刻・欠席をしないこと。受講者数・状況に応じ、順番などが入れ替わることがあります。

科目名 教育測定及び方法
Title Educational Measurement and Method
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
教授 木下 まゆみ (キノシタ マユミ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

この科目では、教育において必要な測定法と評価について学習する。具体的には、1.教育測定と教育評価、2.性格、3.知能、4.統計、5.データ分析に関して学習する。各回の授業は、時間内でレポートを作成、提出する。提出されたレポートは次週評価とともに返却する。この一連の作業により、文章力の向上を目指すことも本授業の目的とする。

達成目標

教育評価に関する各種理論の知識を深め、実践に貢献する教育評価のあり方を理解する。統計学的な知識およびパソコンによる統計技能を習得する。授業内レポート作成を通じて、文章力の向上を図る。

スケジュール

- 第1回 教育測定の概要 - 測定と評価 -
- 第2回 授業内レポートの書き方
- 第3回 教育評価の種類1 相対評価と絶対評価
- 第4回 教育評価の種類2 パフォーマンス評価
- 第5回 知能の理論1 (検査法)
- 第6回 統計学の基礎知識1 (Σ 計算、平均と分散)
- 第7回 統計学の基礎知識2 (標準化、偏差値)
- 第8回 統計学実習① (小テスト、平均、SD)
- 第9回 統計学実習② (標準得点、偏差値)
- 第10回 人格検査実習① (測定実習、表の作成)
- 第11回 人格検査実習② (関数の利用、検査結果の判断)
- 第12回 知能・人格の理論 - 遺伝説と環境説 -
- 第13回 教育評価の実践 (学級運営)
- 第14回 教育評価の活用 (評価と実践の連携)
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する。

参考書 田中 耕治 『教育評価』 岩波書店
吉田 寿夫 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書

授業外での学習

返却したレポートの講評をよく読み、文章作成についての理解を深めること。できるかぎり再提出を図ること。

評価方法

評価方法は、授業内レポート (70%)、実習レポート (20%)、および小テスト (10%) である。期末試験は課さない。評価基準は、レポートは、十分な分量があるか、授業内容を網羅しているか、文章構造が整合的かの3点である。実習レポートは、エクセルの操作が適切に行われたことが確認できるかどうかである。小テストは、

履修上の注意

統計学実習の回はPCを使うため、教室を変更します。移動先は授業内で指示するので注意して下さい。

科目名 生徒・進路指導論
Title Student Guidance and Carrier Guidance
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 泰居 克明 (タイイ カツアキ)

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

機能として自己指導能力の育成を目指す生徒指導を念頭に、積極的な生徒指導、及び消極的・治療的な生徒指導を含めて校内の指導体制を充実させ、さらに関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を推進していくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。キャリア教育は進路指導を内包し、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質や能力を育むことを目的とし、その推進に必要な知識や素養を身につけることができる。以上、教員、教育行政等の経験を活かし、講義する。

達成目標

- 1 生徒指導の意義や原理、生徒指導の進め方及び生徒理解の方法を理解できる。
- 2 生徒指導に基づく学級（HR）経営の方法や生徒指導上の諸課題への対応の在り方を説明できる。
- 3 進路指導・キャリア教育の意義やねらい・進め方を理解できる。
- 4 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を説明できる。

スケジュール

第1回	本科目についてのガイダンス	
第2回	生徒意義と意義と原理	教育課程と生徒指導
第3回	生徒の心理と生徒理解	学校における生徒指導体制
第4回	教育相談	
第5回	生徒指導の進め方	
第6回	生徒指導に関する法制度等	学校と家庭・地域・関係機関との連携
第7回	生徒指導のまとめ	
第8回	①キャリア教育とは何か	キャリア教育の必要性と意義
第9回	②キャリア教育とは何か	キャリア教育と進路指導
第10回	①キャリア教育の推進のために	校内組織の整備 全体計画の作成
第11回	②キャリア教育の推進のために	年間指導計画の作成
第12回	③キャリア教育の推進のために	連携の推進 職場体験活動 キャリア教育の評価
第13回	①キャリア教育の実践	キャリア発達 キャリア発達課題
第14回	②キャリア教育の実践	3年間を見通した系統的なキャリア教育取組 各教科等における取組
第15回	全体のまとめ及び試験	

教科書・参考文献

- 教科書 ①生徒指導提要（文部科学省）②中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）以上はTeams等により送付予定。
- 参考書 その他関係資料等は適時配布する。

授業外での学習

各回講義出席にあたっては、毎回事前に当回分の本文に目を通しておく等の予習が必要である。

評価方法

評価方法は、平常点（授業への取組、積極性等）20％、毎回講義時に実施する小論（レポート）45％、講義最終日の試験35％により総合的に評価する。評価基準は、授業の参加状況や意見内容に加え、達成目標と照らし合わせた上、特にレポート等は学生自身の課題意識や考え方を重視する。まいかい点数化していき、原則、合

履修上の注意

- ① 上記スケジュール、評価等は目安である。なお、第1回の講義において担当教員が詳細を説明する
- ② 授業内でTeamsで送付された教科書を使用するが、スマホ、タブレットを見ながらでもよいが、できればプリントアウトしておくことが望ましい。

科目名 教育相談
Title School Counseling
科目区分 教職関連科目

担当教員
非常勤講師 泰居 克明 (タイイ カツアキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1～4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
前期

目的

教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人またはその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、個別の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会を捉え、あらゆる教育の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが重要である。したがって、教育相談は、生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長の援助を図ることを目的とする。学校における教育相談は、専門機関のように本人や保護者から自発的に来るのを待つだけでなく、小さな兆候を捉えて事案に応じて適切に対応し、深刻な状態になる前に早期に対応することが可能である。そこで、学級担任、様々な立場の教師の日常のかかわりの持ち方をはじめとする教育相談の知識や技能を身に付ける。以上を教員、行政、適応指導等の経験を活かし、講義する。

達成目標

教育相談、学校カウンセリング及び生徒指導の教育的意義を押さえ、その機能を生かして生徒が学校生活において適応できるよう、実践的な技法を身につけることができる。また、不適応を起こした場合の対応等について活用、応用できる。

スケジュール

- 第1回 学校における教育相談の歩み・学校における教育相談の意義と役割
- 第2回 学校における教育相談の基本
- 第3回 場面に応じた教育相談の進め方
- 第4回 教育相談の考え方・方法を生かした教育活動の展開
- 第5回 教育相談に役立つ学習理論等の応用
- 第6回 教育相談の充実のための校内体制の在り方
- 第7回 校内の指導体制における教育相談部の在り方
- 第8回 校内の指導体制における教育相談部の連携の在り方
- 第9回 教育相談室の運営
- 第10回 保護者や地域及び関係機関との連携の進め方
- 第11回 教育相談研修の在り方・進め方
- 第12回 教育相談の評価の在り方・進め方
- 第13回 演習① (中学校)
- 第14回 演習② (高等学校)
- 第15回 まとめ及び試験

教科書・参考文献

- 教科書 「学校における教育相談の考え方・進め方」等国や県が発行したもの。(講義開始前若しくは第一回目以降Teamsにて送付するので購入しなくてよい)
- 参考書 その他関係資料等は適時配布する。

授業外での学習

第1回目の講義を除き、各回講義出席にあたっては、毎回事前に、指定された次回分の本文に目を通しておく等の予習が必要である。

評価方法

評価方法は、平常点(授業への取組、積極性等)20%、毎回講義時に実施する小論(レポート)45%、講義最終日の試験35%により総合的に評価する。評価基準は、授業の参加状況や意見内容に加え、達成目標と照らし合わせた上、特にレポート等は学生自身の課題意識や考え方を重視する。毎回点数化していき、原則、合計で

履修上の注意

- ① 上記スケジュール、評価等は目安である。なお、第1回の講義において担当教員が詳細を説明する
- ② 授業内でTeamsで送付された教科書を使用するが、スマホ、タブレットを見ながらでもよいが、できればプリントアウトしておくことが望ましい。

科目名 教育実習I
Title Practice Teaching I
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 内山 知一（ウチャマ トモカズ）

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
5

開講時期
通年

目的

教育実習の事前準備・事後の振り返りで、自らに足りない点や現場で求められることを把握し、学校での経験を元に得た学びなども踏まえて、個々に習得すべき力を養う。

達成目標

- ・ 授業、クラス担任、生徒指導、各種業務など、現場の仕事を形作る諸側面を把握し、有効な力を身につけられる。
- ・ 事後の振り返りで、各自で個別に反省すべき点に気づき、自らのスキルを高められる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（前期）
- 第2回 現場で求められるさまざまな力・注意事項
- 第3回 事前準備のために取り組むべきこと
- 第4回 カリキュラム・指導要領の概観
- 第5回 指導案作りと形式（例）
- 第6回 模擬授業①
- 第7回 模擬授業②
- 第8回 模擬授業③
- 第9回 模擬授業④
- 第10回 模擬授業⑤
- 第11回 模擬授業⑥
- 第12回 模擬授業⑦
- 第13回 模擬授業⑧
- 第14回 模擬授業⑨
- 第15回 模擬授業⑩
- 第16回 ガイダンス（後期）
- 第17回 事後の振り返り①授業の検討
- 第18回 事後の振り返り②授業の検討
- 第19回 事後の振り返り③授業の検討
- 第20回 事後の振り返り④授業の検討
- 第21回 事後の振り返り⑤授業の検討
- 第22回 事後の振り返り⑥授業の検討
- 第23回 事後の振り返り⑦授業外のあるまじき仕事の特徴・意義
- 第24回 事後の振り返り⑧授業外のあるまじき仕事の特徴・意義
- 第25回 事後の振り返り⑨これまでの経験も踏まえた反省とまとめ
- 第26回 事後の振り返り⑩これまでの経験も踏まえた反省とまとめ
- 第27回 各自で個別に取り組むべきことの確認①
- 第28回 各自で個別に取り組むべきことの確認②
- 第29回 自らの課題克服のための計画立案
- 第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布します。

参考書 受講者の状況も踏まえて適宜示します。

授業外での学習

事前・事後に振り返り・まとめ・次週の確認などをすすんでやること。

評価方法

実習の評価資料と模擬授業・提出物で評価。各目標に照らし有効な取り組みができたかで評価します。

履修上の注意

無断での遅刻・欠席をしないこと。受講者数・状況に応じ、順番などが入れ替わることがあります。

科目名 教育実習Ⅱ
Title Practice Teaching II
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 内山 知一（ウチャマ トモカズ）

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
3

開講時期
通年

目的

教育実習の事前準備・事後の振り返りで、自らに足りない点や現場で求められることを把握し、学校での経験を元に得た学びなども踏まえて、個々に習得すべき力を養う。

達成目標

- ・授業、クラス担任、生徒指導、各種業務など、現場の仕事を形作る諸側面を把握し、有効な力を身につけられる。
- ・事後の振り返りで、各自で個別に反省すべき点に気づき、自らのスキルを高められる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（前期）
- 第2回 現場で求められるさまざまな力・注意事項
- 第3回 事前準備のために取り組むべきこと
- 第4回 カリキュラム・指導要領の概観
- 第5回 指導案作りと形式（例）
- 第6回 模擬授業①
- 第7回 模擬授業②
- 第8回 模擬授業③
- 第9回 模擬授業④
- 第10回 模擬授業⑤
- 第11回 模擬授業⑥
- 第12回 模擬授業⑦
- 第13回 模擬授業⑧
- 第14回 模擬授業⑨
- 第15回 模擬授業⑩
- 第16回 ガイダンス（後期）
- 第17回 事後の振り返り①授業の検討
- 第18回 事後の振り返り②授業の検討
- 第19回 事後の振り返り③授業の検討
- 第20回 事後の振り返り④授業の検討
- 第21回 事後の振り返り⑤授業の検討
- 第22回 事後の振り返り⑥授業の検討
- 第23回 事後の振り返り⑦授業外のあるまじき仕事の特徴・意義
- 第24回 事後の振り返り⑧授業外のあるまじき仕事の特徴・意義
- 第25回 事後の振り返り⑨これまでの経験も踏まえた反省とまとめ
- 第26回 事後の振り返り⑩これまでの経験も踏まえた反省とまとめ
- 第27回 各自で個別に取り組むべきことの確認①
- 第28回 各自で個別に取り組むべきことの確認②
- 第29回 自らの課題克服のための計画立案
- 第30回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 適宜資料を配布します。

参考書 受講者の状況も踏まえて適宜示します。

授業外での学習

事前・事後に振り返り・まとめ・次週の確認などをすすんでやること。

評価方法

実習の評価資料と模擬授業・提出物で評価。各目標に照らし有効な取り組みができたかで評価します。

履修上の注意

無断での遅刻・欠席をしないこと。受講者数・状況に応じ、順番などが入れ替わることがあります。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 泰居 克明 (タイイ カツアキ)

E-Mail

配当年次 4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-----------	-------------	----------	------------

目的

教育実践演習は、教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。教職課程の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されていることを最終的に確認するものである。将来、教員になるにあたり自分にとって何が課題であるのか、不足している知識や技能は何かを探り出し、それらを本演習で補い定着を図ることを目的とする。以上、教員、教育行政等の経験を活かし、講義する。

達成目標

教員として必要な次の4項目の資質を理解でき、実践意欲を高めていこうとすることができる。
①教職に対する使命感や責任感、教育的愛情が豊かであること ②社会性や対人関係能力が適切であること
③生徒理解や学級経営等に関する資質を身につけていること ④教科等の指導に対する技能・知識を習得していること

スケジュール

第1回	「教職実践演習」の目的、計画と進め方についての説明等。
第2回	これまで教職課程で学んできたことの確認。
第3～5回	教育実習修了者の体験報告を通して、各学校の取り組みや実践、実習生としての活動等を確認し、今日の子どもの特性や教員の役割についてロールプレイやディスカッション等により考えを深める。
第6～8回	学校現場の理解を通して、次の4項目を理解しているか確認する。 ①教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務 ②教員組織における自己の役割や他の教職員と協力した校務運営の重要性 ③保護者や地域との連携・協力の重要性 ④社会人としての基本マナー
第9～12回	教科等の指導研究：模擬授業やグループ活動を通して、次の3つを研究する。 ①学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能等） ②教材研究の方法や、教材、教具、学習形態等を考慮した学習指導案の作成 ③教員としての表現力や授業力、子どもの反応を生かした授業づくり
第13～14回	教育的課題の考察：生徒理解と学級経営のなかで生じる問題、生徒の問題行動、いじめや不登校、特別支援教育等の今日的な教育課題について事例研究を通して考察する。
第15回	まとめと試験

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 授業内で適時紹介する。

授業外での学習

〈授業を始める前に〉教育実習について各自で記録のまとめをしておくこと。発表についての準備をすること。

評価方法

評価方法は、平常点（授業への取組、積極性等）20%、毎回講義時に実施する小論（レポート）と発表内容を加えて45%、講義最終日の試験35%により総合的に評価する。評価基準は、授業の参加状況や意見内容に加え、達成目標と照らし合わせた上、特にレポート等は学生自身の課題意識や考え方を重視する。まいがい点数化

履修上の注意

上記スケジュールはあくまでも目安である。詳細は第1回の授業にて担当教員が説明する。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目

担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ)
教授 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

これまでの学習を振り返り、教科指導のさらなる知識・技能を身に付け、教職に関する理解を深める。また、これらと同時に、生徒理解の基盤となるコミュニケーションに関する能力を高める。以上を通じて、自身の教師としての資質を再認識する。

達成目標

大学において学んだ教職に関する知識と、教育実習等で得た実践的技能の定着と向上を目指し、教師としての人格的・社会的・指導的資質のより一層の研鑽を図る。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 授業に関する理解 KJ法
- 第3回 教科の理解① 日本史の教育法
- 第4回 教科の理解② 世界史・地理の教育法
- 第5回 教科の理解③ 公民の教育法
- 第6回 教育実習の振り返り マインドマップ
- 第7回 コミュニケーション① 相互作用性の理解と実習
- 第8回 コミュニケーション② 非言語的行動の理解と実習
- 第9回 教育評価① 学力とその評価
- 第10回 教育評価② 逆引き設計による授業案作成
- 第11回 教育評価③ 模擬授業(グループA)
- 第12回 教育評価④ 模擬授業(グループB)
- 第13回 教育評価⑤ 模範解答とルーブリックの作成
- 第14回 教育評価⑥ グループ発表
- 第15回 総括 ロールレタリング

教科書・参考文献

教科書 授業時に指示

参考書 授業時に紹介

授業外での学習

教科に関する授業では、事前に教材研究を進めて知識を定着させておく。実践的な内容は、授業終了後に同じ手順で繰り返し、手続きを習得する。教育に関するニュースに常日頃から関心を持ち、積極的に情報収集を行うこと。授業で扱う様々なコミュニケーションスキルについて、普段の生活の中でも意識し、実践すること。

評価方法

評価方法は、授業への参画度(50%)、作成資料(50%)である。評価基準は、授業への参画度については、グループでの作業において、十分な意見交換、作業への貢献、ディスカッションへの関与ができていることである。作成資料は、個人のものとグループでのもの両方において、適切な表現方法を用いていること、伝えたいこと

履修上の注意

グループ作業、対話を中心に授業を進める。積極的な参加を期待している。

科目名 教職実践演習(中・高)
Title Seminar of Teacher Professional Practice
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 高橋 望 (タカハシ ノゾム)

E-Mail

配当年次
4

単位区分
要件外

単位数
2

開講時期
後期

目的

教職実践演習は、教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。教職課程の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されていることを最終的に確認するものである。将来、教員になるにあたり自分にとって何が課題であるのか、不足している知識や技能は何かを探り出し、それらを本演習で補い定着を図ることが目的である。

達成目標

教員として必要な次の4項目の資質を確認する。

- ①教職に対する使命感や責任感、教育的愛情が豊かであること ②社会性や対人関係能力が適切であること
③生徒理解や学級経営等に関する資質を身につけていること ④教科等の指導に対する技能・知識を身に習得していること

スケジュール

- 第1回～第2回 「教職実践演習」の目的、計画と進め方についての説明等。
これまで教職課程で学んできたことの確認。
- 第3回～第5回 教育実習終了者の体験報告を通して、各学校の取り組みや実践、実習生としての活動等を確認し、今日の子どもの特性や教員の役割について考える。
(ロールプレイングやディスカッション形式)
- 第6回～第8回 学校現場への理解：現地調査(フィールドワーク)やゲストスピーカーによる講話を通して、次の4項目を理解しているかを確認する。
①教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務
②教員組織における自己の役割や、他の教職員と協力した校務運営の重要性
③保護者や地域との連携・協力の重要性
④社会人としての基本マナー
- 第9回～第13回 教科等の指導研究：模擬授業やグループ活動を通して次の3つを研究する。
①学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能など)
②教材研究の方法や、教材・教具、学習形態、学習指導案等の作成
③教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり
- 第13回～第14回 教育的課題の考察：生徒理解と学級経営のなかで生じる問題、生徒の問題行動、いじめや不登校、特別支援教育等の今日的な教育課題について事例研究を通して考察する。
- 第15回 研究発表会(最終プレゼンテーション)
これから教員として基本的な資質・能力が全般にわたって備わっているかを確認する。

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。資料等を配布する。

参考書 参考書・参考資料等は授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

- < 授業を始める前に > これまでの教職課程での学び、教育実習について各自で記録のまとめをしておくこと。
< 履修カルテ > 記入方法、提出日を授業中に説明するので、締め切りまでに各自で記入しておくこと。
< 模擬授業・研究発表会 > 個人あるいはグループごとに発表日までに準備をすること。

評価方法

それぞれの課題の参画状況や成果を「目的」の①～④に照らし合わせて点数化し、教員としての最低限の資質・能力・知識が身につけているか確認した上で評価を行う。

履修上の注意

- ①上記のスケジュールはあくまでも目安である。詳細は第1回の授業にて担当教員が説明する。
②授業スケジュールが不定期になることがある。それを承知のうえで履修すること。
③出席回数が3分の2に達しない者は評価の対象にしない。

科目名 職業指導
Title Guidance of Vocational Education
科目区分 教職関連科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 大嶋 伊佐雄 (オオシマ イサオ)

E-Mail

配当年次 1～4	単位区分 要件外	単位数 2	開講時期 後期
-------------	-------------	----------	------------

目的

生徒自らが進路について、主体的に考え、活動し、選択・決定できるよう、その発達段階を踏まえて組織的・計画的・継続的に指導・支援する方法を考察します。全校を挙げて取り組む指導体制の構築について理解を深めます。「特別活動」や「総合的な探究の時間」における進路指導計画の立案とその指導法などについて考案します。これらの内容を通して、教師として求められている実践的指導力を身に付けます。また、学校現場および教育指導行政における教育経験を活かし、職業指導・進路指導・キャリア教育における具体的な課題や対応方法について講義を行います。

達成目標

1. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解するとともに、その説明ができる。
2. 学校教育における職業指導・進路指導・キャリア教育の変遷及び基礎理論が理解できる。
3. 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。
4. 「特別活動」及び「総合的な探究の時間」を活用した進路指導計画を作成できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス・職業指導とは何を学ぶのか
- 第2回 職業指導の概念
- 第3回 職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開
- 第4回 わが国の職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史的発展
- 第5回 職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論
- 第6回 職業指導・進路指導・キャリア教育の基本理念と性格
- 第7回 進路指導・キャリア教育の諸活動
- 第8回 進路指導・キャリア教育の組織と運営
- 第9回 進路指導・キャリア教育の計画と実践(情報機器の活用)
学習指導要領上の取扱い(総則、特別活動、総合的な探究の時間)
- 第10回 進路指導計画の作成
- 第11回 指導計画の発表と評価(情報機器の活用)
- 第12回 学校と家庭・地域・諸機関との連携・協力
- 第13回 キャリア・カウンセリングの理論・技法とその活用
- 第14回 進路指導・キャリア教育のアセスメント
産業界・労働界における職業指導とキャリア・ガイダンス
- 第15回 キャリア教育と商業教育の在り方
キャリア教育の課題と展望
授業の振り返り

教科書・参考文献

教科書 特定の教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

参考書 「進路指導・キャリア教育の理論と実践」(吉田辰雄他著、日本文化科学社)
「高等学校学習指導要領解説総則編(平成30年告示)」(文部科学省、東洋館出版社)

授業外での学習

社会における職業構造について、常時様々な資料や情報の入手と分析を心がけ、キャリア・ガイダンスの多面的な理解を深める。
授業計画表に記載されている項目について、テキストを利用して予習や復習するなど、積極的・主体的な学習態

評価方法

定期試験(60%)、レポート課題とその発表(30%)、授業への参加度(態度・意欲など10%)
評価基準は、達成目標に挙げた項目と照らし合わせ、授業内での質問や意見の内容、定期試験やレポート課題で具体例を挙げた論術ができるかを評価基準とする。

履修上の注意

特になし

科目名 介護等体験実習
Title Internship for Care and Nursing
科目区分 教職関連科目

教授 担当教員 原 史子 (ハラ アヤコ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2～4

単位区分
要件外

単位数
1

開講時期
通年

目的

小学校及び中学校教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）が制定され、小学校又は中学校教諭の普通免許状を取得するためには、特別支援学校及び社会福祉施設等においての実習が義務づけられた。この科目は、この規定に従い展開される。実習における意義などについては、講義で説明する。

【注意点】この科目を履修・登録ができる者は小学校又は中学校教諭の普通免許状を取得する人のみ。講義等の具体的日時の連絡は、掲示板などを通して行う。掲示板などの見忘れ、見落としによる遅刻・欠席は、認められないので十分に注意すること。

達成目標

- ・教育実習の一環としての体験実習であることを理解し、課題を設定できる。
- ・介護について考えることができる。
- ・共生社会、ノーマライゼーション社会の構築に対して、教員の役割を考えることができる。

スケジュール

前年度11月 ■オリエンテーション①
介護等体験実習（中学校免許取得意志）の確認
群馬県社会福祉協議会との連絡調整開始のための準備

※教科書は、新版が出版される場合があるので、必ず最新の教科書を購入すること

当該年度4月 ■オリエンテーション②
事務局よりオリエンテーション 資料配付
※第1週よりオリエンテーションを行う予定 正当な理由がなく遅刻・欠席をした場合、以後の本年度の学習が継続できなくなるので注意してほしい。

■特別支援学校体験実習事前指導
介護等体験実習の意義とねらい
教育実習の一環としての体験実習の意義
事前学習レポート課題①の提示
※例年6月下旬頃から特別支援学校体験実習が開始される

5月 ■オリエンテーション③
事務局よりオリエンテーション 資料配付

6月 ■社会福祉施設実習事前指導
事前学習レポート課題②の提示

8～9月：社会福祉施設実習（5日間）

11月以降すべての実習が終了後
■事後指導
最終レポート課題③の提示

※担当者は、熊澤利和、原史子

教科書・参考文献

教科書 教科書① 『よくわかる社会福祉施設 - 教員免許志願者のためのガイドブック（第5版）』全国社会福祉協議会 2018

参考書 教科書② 全国特別支援学校長会/全国特別支援教育推進連盟編著（2020）『介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジアース教育新社

授業外での学習

授業中に指示する予習内容を必ず調べてくること。授業後は授業内容を整理するとともに、実習先の学校・施設の情報を収集し実習に向けて準備をすること。

評価方法

所定のオリエンテーション、講義及び所定の実習を、すべて出席をすることを前提に、レポート、実習ノート、受講態度等を参考にしながら、教員が行う評価及び実習施設の指導者による評価から総合的に評価する。事前学習レポート課題①②は、各自が配属された実習先についての事前学習が適切になされているか、最終レ

履修上の注意

オリエンテーション及び講義に出席できない場合は事前に欠席理由書を提出すること。なお、当日病気等でやむを得ない事情（アルバイトは不可）により出席できない場合は、必ず本人が連絡すること。正当な理由がなく、かつ連絡がない遅刻・欠席の場合、該当年度の介護等体験実習は、取り消しとなる。